

食の安全に関心をもつ題材の工夫

1. はじめに

生活に密着してすぐに実践できる教科として、「実物教材」を用いて実際に生徒が体験し考えさせるということを大切にしている。最近では、食品表示に関連した「食の安全」が問われている。食品表示を正しく理解し、自らが考えて食品を購入できる力を身につけさせたいと思い、食品添加物に関する題材を取り入れた。生徒が自主的に考え、選択していき、学習を生活に結び付けていくための授業実践を報告していく。

2. 題材について

本校1年生に実施した「食の安全」に関するアンケート結果から、「食品表示を見ない生徒は約4割であること」「食品購入の際、重視するのは値段と原産国に偏っていて、原材料までは重視されていない」ということがわかった。そこで、今回は(A)「食品添加物を使用したスナック菓子」と(B)「食品添加物をほとんど使用していない幼児用スナック菓子」を用いて味や原材料の比較を行った。

最初に、ワークシート・お菓子(A)(B)を配布し、生徒には(B)が幼児用スナック菓子ということは伝えずに比較させる。先入観をもたずに実際に試食することで違いをはっきり感じさせる。

その後、原材料の表示を見比べて、味や食感の違いが食品添加物であることを理解させる。

この時点で、生徒にどちらを選ぶか聞いてみると、食品添加物が含まれているAを選ぶという意見が多

かった。その後、食品添加物があるから作ることでできるものの例としてアイスクリームを、コストダウンのために使われている食品添加物の例としてコーヒーフレッシュを取り上げて説明する。

食品添加物が体に悪いものだというイメージが強いが、食品添加物があるおかげで作ることのできる食品があることも伝えつつ、コストダウン等作り手側の都合で用いられている実態を知らせ、意識して食品表示を見て買うことを意識させたい。そして、食品表示を正しく理解し、自らが考えて食品を購入できる力を身につけさせたい。

3. 授業計画

1. 食品の選び方を考えよう
2. 食品の表示を知ろう(本時)
3. 食品の保存を考えよう
4. 調理の計画をしよう
5. 肉を調理しよう
6. 魚を調理しよう
7. 野菜を調理しよう

4. 授業実践

- ・本時の学習の目標「食品表示を正しく理解し、自らが考えて食品を購入できる力を身につけさせる」を確認する。
- ・机を班の形にする。(4人班)
- ・1種類のスナック菓子(A)と同じ種類の幼児用ス

ナック菓子（B）を班で食べ比べ、比較する。



- ・（A）と（B）の違いを班ごとに発表する。
※ワークシート・お菓子（A）（B）を配布する。
生徒には（B）が幼児用スナック菓子ということは伝えずに比較させる。
※味だけではなく、見た目やにおいなど、いろいろな違いがあることに気付かせる。
- ・（A）と（B）のスナック菓子のパッケージを各班に配布し、原材料と表示を比較し記入する。



- ・原材料で（A）にしか含まれていないものを発表する。
- ・「自分ならどちらを買うだろうか」を発表する。
- ・食品添加物について説明する。
- ・アイスクリームやコーヒーフレッシュの例を提示し、食品添加物のメリットとデメリットに気付かせる。
- ・「これから食品を買うとき、何に気をつけていこうと思うか？」を班で話し合い、発表する。

5. 授業後のアンケートより

- ・スナック菓子にこんなに食品添加物が入っていると

は思わなかった。一切添加物をとらない生活は無理だと思うので、表示をよくみて食品を買おうと思う。

- ・添加物が入っていないお菓子は味が薄くて、添加物の力はすごいなと思った。
- ・なにげなく食べていたけど、思っていたよりも添加物がいっぱい入っていてびっくりした。
- ・添加物はずごく悪いイメージがあったけど添加物を使わないといけないものもあるんだなとわかった。
- ・食品添加物が入っているか入っていないかでこんなに味が違うなんてびっくりした。
- ・添加物のおかげで作れる食べ物があるのと同時に買う時は表示をよくみて買う必要があると思った。また、添加物のおかげで安くできるものもあることがわかった。

6. 成果

- ・生徒の身近にあるスナック菓子を取り上げたことで生徒の強い関心をひきだすことができた。また、表示を見せずに、実際に食品添加物が入っているスナック菓子と入っていないものを食べ比べたことで、食品添加物の効果を感じさせることができた。
- ・食品添加物のメリット、デメリットを知り、「おいしくなるけれどとりすぎはよくない、どうしたらいいのか」と悩み、班活動での話し合いも活発に行っていた。普段話し合いが十分できていなかった班でも、自分の意見をしっかり言えていた。
- ・食品表示に関心がなく、今まで表示を見ていなかった生徒が多かったが、食品表示の大切さや日々の選択が自分の食生活を作り上げていく実感をもたえたようである。
- ・食品表示は食品添加物の問題だけでなく、原産国や安全の問題にも関連している。また、幼児用スナック菓子を用いたことで、「子どもの成長」の学習にも応用することができる。

この授業をきっかけとして、生徒が食生活に関心をもって自主的に活動できるよう、教材の工夫・活用を続けていきたい。